

内容項目名	誠実（内容項目A－（1））		
資料名	新聞記事「いじめと生きる」 （出典「実話をもとにした道徳ノンフィクション資料集」図書文化）		
学校名	八千代市立村上東中学校	指導者	平野 久美子

1 学習指導案

中学校2年D組 道徳学習指導案

平成29年10月28日（土）4校時

（1）主題名

誠実な生き方とは何か

（2）ねらい

いじめという行為は被害者だけではなく、加害者の人生にも大きな影を落とすことになることを知る。

犯してしまった過ちにはしっかりと向き合わなくてはならないことに気づき、自分のこれからの人生をより強く、より誠実に生きていこうとする気持ちを高める。

（3）主題設定の理由


本主題は、内容項目A 誠実「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つこと」を受けて設定したものである。

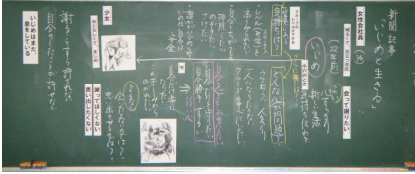
この資料は、新聞記事であり、「事実」が淡々と書かれている。だからこそ、現実の問題として、誰にでも起こりえることとして受け止められるし、いじめのその後を知る資料としても意味があると考えた。ハッピーエンドにならなかった現実を生徒に考えさせることで、いじめが、被害者だけでなく加害者の人生にも大きな影を落とすことを知らせ、いじめを行わないという強い意志を一人一人の生徒に持たせたい。

また、いじめで人を傷つけたという記憶は、自分が一生向き合わなくてはならず、その自分の過ちに向き合いながら、二度と同じことをしないと覚悟を持って生きなくてはならない。たとえ他人に罰せられなくても、その人の心の中の罪の意識は消えることはない。それでも、自分のしたこととしっかりと向き合うことが、誠実な生き方であり、人の持つべき強さではないかと考えた。だから、そうならないようにするためにも、日頃から善悪の判断を正しくし、考えて行動する必要があることも意識させたい。そして、誰の心にもある弱さを乗り越えて「いじめをしない」という選択をできる生徒にしていきたいと感じる。この授業を通し、自分に対してやましさのない、誠実で清々しい生き方を目指す姿勢を育て、いじめについて生徒一人一人が考えていくきっかけになればと思っている。

（4）展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	1 資料1のあらすじを確認する。		・資料が長いので、前半部分は前時に読ませておく。その際に、「自分がいじめていた子にあって謝りたい」という、この女性の考えについてどう思うかを、あらかじめ記述させ

<p>展開 (35)</p>	<p>2 資料1について自分の意見を発表しあう。</p> <p>○「自分がいじめていたことを謝りたい」という、この女性の考えについてどう思いますか。</p> <p>○この女性は、なぜこんないじめの行動をしたのだろう。この行動の背景にある気持ちは何だろう。</p>  <p>3 資料2を読んで話し合う。</p> <p>○この女性の、心の奥底にはどんなものがあるのだろう。どんなところが問題なのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・謝るのはいい。 ・悪いことをしたと気づいている。 ・ずっと悩んでいて、かわいそう。 ・早く謝らせて、楽にさせてあげたい。 ・そんなことしなければよかった。その時に謝ればよかった。 ・その人は自分達とは違うと線を引きたかった。 ・その人をグループに入れないことで、自分(達)はレベルが高くとられると思ったかった。 ・誰かをいじめていないと、自分が一人にされそうだったから。 ・グループの中にいないと自分がいじめられそうで怖かった。 ・誰かがいじめられていれば、自分はいじめられることはないと思った。 ・一人になりたくない、周りに人がいないと不安、グループの中心にいたい、と自分のことばかり考えていた。 ・自分たちとちょっと違うからといって、攻撃してしまった。 	<p>ておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を一度要約して話す。 ・前時にワークシートに書かせておいたものを発表させる。 ・女性の心のつらさに目を向けさせる。 ・この女性はどのようにして謝りたいと思ったのかについても考えさせたい。 ・もし謝るとすれば、どんなふうに謝るか想像させる。 ・「グループのレベルが下がる」とはどんなことなのか自分たちの生活も振り返りながら、女性の行動の裏にある気持ちを想像させる。 ・特別な理由はないのに、女性がいじめをした気持ちにはどんなものがあったのか、想像させる。 ・この女性のどんなところが「弱かった」のかについて考えさせる。 ・自分以外の人を攻撃することで、グループの中心でありたいという自己中心的な気持ちや心の弱さ
--------------------	--	--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・他の人に思いやりがなかった。 ・いじめていたその時に、悪いことだと気づいてやめたり、謝ったりできなかった。 ・今も自分が楽になりたい、救われたいから謝りたいと言っている自分勝手な考え方。 	<p>に気づかせたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめた当時だけでなく、今も、「謝る」ことで、自分だけが楽になろうとした、この女性の身勝手さも心の弱さととらえさせたい。
<p>終末 (10)</p>	<p>4 今日の学習から考えたことを整理し、発表する。</p> <p>○「いじめはまだ、息をしている。」というこの新聞記事の最後の一文を踏まえ、いじめについてどう思うか、また、自分のこれからの生き方について考えたことをワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたことを受け入れ、反省しながら生きていくことが必要。 ・やってしまったことは、なかったことにはならないので、そうならないように、普段から考えて行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・謝りたくても謝れず、時々思い出しては苦しみ続ける、この女性のこれからの人生を想像させる。 ・授業の感想を書かせる。 ◎いじめる側の心の弱さについて考え、ワークシートに書いている。

(5) 他の教育活動との関連

日常生活の中で自分の犯した過ちや失敗について、正当化したり責任転嫁したりすることなく、反省をその後の生活に活かしていけるような指導をする。それと同時に、自分が行動するにあたって、後で後悔することになったり、あるいは自分に対して、後ろめたさを感じたりしないような、誠実な生き方を目指していけるように指導していく。

2 事後検討会

(1) 授業記録

- T 前の時間に、この女性の考えを君たちがどう思うか書いてもらったので、この意見から聞いてみます。
- S 良いと思う。相手も自分も心がスッキリするから。
- S 謝って、また新しく生活を始めればいい。
- S 会いたくないと思うから、謝らない方が良いと思う。
- S あまり良くない。思い出したくないと思うから。
- T 良いと思う人もいるけど、良くない、やめた方がいいと思う人もいますね。謝りたい気持ちはわかるけど、謝らない方がいいだろうと書いている人もいました。この女性はかなりひどいことをしているけど、「グループのレベルが下がる」ってどういうこと？周りの人と話し合ってみよう。
- S その人が、もし嫌われている人だとしたら、その人をもしグループに入れたら他の人が近づきたくなくなるから、グループのレベルが下がると言っているんだと思う。
- S 全員可愛い中に、一人だけそうでない人がいたら価値が下がる。
- T 自分のグループは同じような感じなのに、そこにこういう人が入ると価値が下がるということ

ですね。それでは、いじめている側の、この行動の背景にある気持ちは何かということを考えてみて下さい。

S やめることができなかった。急にやめると、周りから変に見られて、自分がいじめられる。

S その子と仲良くしたら、自分もいじめられそうだったから。

S 自分は絶対にいじめられたくないから、いじめる側にたてば、絶対にいじめられない。

S ストレス発散。

T この女性は、この子をいじめたかったのでしょうか？

S ちがう。誰でも良かったんだと思う。

T そうすると、むしろこちら（いじめる側）の人の側に、何か問題があったかもしれませんね。これは、実際のお話で、後編があるから読んでみよう。

— 範読 —

T さっきはいじめという行動の裏の気持ちを考えてもらいましたが、今度はもっとその奥深いところの心を考えてみよう。いじめの奥深くにある心ってどんな心なんだろう。さっきいじめた側に問題があったかとも言ったけど、どんなところに問題があったのかな？

S 弱かった。弱い心？

T そう、弱かったと言っているね。自分の心の奥の、どんなところが弱かったと言っているの？

S 自分は1人だと何もできない。

S 心が弱いて分かっているけど、みんなの前では強く見せようとしていた。

T なるほど、じゃあ心の中の自分とみんなの前の自分は違っていたということだね。

S やめる勇気がなかった。なんでこんなことをしてるんだろう。バカみたいと思っていた。

T 1人じゃ何もできなくて、物まねしたり、ウケをねらったりして、この人はどうありたかったのかな？

S 1人じゃなくてみんなと一緒に、グループの中心にいたかった。

T この人はどんな人なの？

S プライドが高かった。

S 弱い。やられたらすぐすねる。自己中心的な人。

T 小6のとき弱かったと言っているけど、今のこの人はどうなのでしょう？

S 自分勝手。自分の事しか考えていない。今も弱い。

T この女性は、自分のしたことを許せるでしょうか。自分を好きでいられるかな。

S 許せない。好きになれない。

T そんな生き方をしなきゃいけないってどんな人生なんだろう。

S つらいと思う。

T 今日は22年前のいじめのことを書いた記事をもとに、みんなにいろいろなことを考えてもらいました。最後に「いじめはまだ、息をしている。」と結んでいますね。このことを踏まえて、この授業で学んだ感想や、いじめについてどう考えるかということを書いてみよう。

S 謝りたかったけど、謝れなくて、つらい気持ちが残っていて、でも、やってしまったことはしょうがないので、そういうのを受け止めて、この先しっかりやっていくしかないと思いました。

S 行ってしまった後のことを考えて、後悔するようなことはしたくないと思いました。

T 確かに、1人になりたくないとか、ウケをねらって中心にいたいとかいう感覚は、みんなの周りにもあるよね。そう思うと、今しっかりと考えておいた方がいいこともあるね。

S 加害者にはしっかりと罪を背負ってもらって、いじめていた経験を忘れず、一生同じことをしないように伝えていってほしい。

S いじめは、一度やってしまうと後には戻れないので、絶対にあってはいけない。だから、毎日

の一つ一つのことを大切に過ごしていかないといけないと思う。

S いじめは簡単には終わらせることができないから、しないほうがいい。

S いじめるのは簡単だけど、いじめをやめるのは難しい。

S 後悔をしているのなら、最初からいじめなければよかったのに。

S いじめで負った傷は、いつまでも治らないし、いじめた側もずっと後悔するからしてはいけないと思った。

(2) 授業の感想

(生徒の感想)

- ・いじめは自己中心的な人がいる限り続くと感じた。だから、後悔しないために、時々自分がそうになっていないか振り返る必要があると感じた。
- ・いじめは簡単には終わらせられないからいじめはよくない。終わらせるより始めない方が簡単だから始めない。
- ・いじめは人の弱い部分を表していると思った。
- ・いじめは、されてる相手も嫌だし、していた人も後から後悔するからどっちも嫌な気持ち。自分もしちゃいけないと思った。いじめを見たら注意できるようにしたいと思った。
- ・いじめた人は、大人になればなるほど自分のやってしまったことを大きく後悔しているし、いじめられた人も、自分がどうしていじめられているかわからなくてつらかったし、今も怖い気持ちだと思う。いじめている人はよくないとわかっているけど自分が大事だからやめられなかったと思う。いじめはどちらの立場もつらいから絶対にやってはいけないと思う。
- ・私は自分を守るため、自分だけ嫌われなければいいと思っていただけ、そんなことをずっと続けていけば、友達がいなくなると、私まで嫌われてしまうと思う。だから、大切なのは自分勝手にならず、相手のことを大切に思う気持ちだと思う。

(保護者の感想)

- ・昔からあるいじめがテーマでした。学校は集団生活をする場所なので、自分の事だけでなく他者を思いやり、言葉や行動に注意することが大切だと思いました。難しい問題ですが、大勢の中での道徳性とは何かを考えながら、自然と身についていくといいと思います。
- ・いじめはなかなかなくなるのが現実です。子どもたちの意見にあったように、ストレス発散でしてしまっている子、いじめられるのが嫌だからいじめてしまっている子、いろいろあると思います。いじめられている子は1人でとてもつらいと思います。今回の授業を通して、クラスのみんなが楽しい学校生活を送れるよう願っています。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) 導入について

実際の新聞記事を扱ったが、クラスの生徒の実態を考え、施設に関する表現などの一部を省略するなど配慮した。資料が長いので、1時間で扱うのは時間的に難しい。前半は前時に読ませておくのが望ましい。

(2) 展開について

本時は、いじめている側の心理をじっくりと考えさせ、自分や自分の身近にもそういう弱い心があると気付かせるため、小グループで話し合わせてみるのもひとつの方法である。また、もし謝るとしたらどんな言葉で謝るかを役割演技させたいが、資料の前半を読んだだけでは心の弱さまで気付きにくいので、終末の前に入れてみたらどうかと感じた。